

## 第 3 回原因究明委員会の概要及びその後の対応状況

## 1 第 3 回吉備中央町原因究明委員会

(1) 日 時 令和 6 年 8 月 7 日(水) 14:00～

(2) 場 所 吉備中央町農村環境改善センター 多目的ホール

## (3) 概 要

## ① 報 告

- 第 2 回委員会の概要及びその後の対応について町から報告

## ② 議 事

## ア 公共用水域等の継続モニタリング結果（議題 1）

- 計画の変更並びに令和 6 年 4 月及び 6 月の結果について、県から説明

## 《主な意見》

- ・降雨により、普段接触しない高濃度の土壌に接触した可能性も考えられる。

## イ 資材置場等の土壌及び地下水の調査結果（議題 2）

- 結果について、町及び県から説明

## 《主な意見》

- ・ MW 1 の地下水と西側沢 F 1 で直鎖・分岐異性体や同族体の構成割合が類似しており、MW 1 から西側沢 F 1 への地下水の移動を示すデータとなっている。
- ・ 土壌中の有機物量により土壌への吸着の程度が違う。
- ・ 降雨時に表層から浸透した雨水が高濃度となるが、土壌中の濃度が低い箇所は雨水が全く通過していないか、土壌中の有機物が少なかったかのどちらかではないか。
- ・ 水は土壌粒子が細かい箇所を通過し、粗い層は避けていく。礫が多い等、土壌粒子が粗い層は雨水が浸透していないとも考えられる。

## ウ 追加調査（議題 3）

- これまでの調査結果について、町から説明

## 《主な意見》

- ・ 追加調査は行わず、これまでの調査結果を踏まえて委員会報告書を取りまとめる。

## エ 対策の手法（議題 4）

- 検討状況について、町から説明

## 《主な意見》

- ・ 資材置場の表層土壌が高濃度であることから、除去せざるを得ないが、深い深度まで全て除去するのは現実的ではない。
- ・ 資材置場への遮水壁の設置は、完全に流出を止められるか不明であること、また、溜まった地下水を汲み上げ浄化することが必要となるほか、生活道路として使っている道路があるため、大規模な工事は難しく、現実的ではない。
- ・ 西側沢 F 1 以降の表流水の浄化は、資材置場への遮水壁の設置により完全に流出

を止めるのであれば対策として考えられるが、資材置場の表層土壌を除去し、表流水の濃度を低下させることを優先すべきである。

- ・現在の検討結果で委員会報告書を取りまとめる。

#### オ 報告書の構成（議題5）

- 構成案について、町から説明

##### 《主な意見》

- ・ 構成案に基づき、委員会報告書を取りまとめる。

## 2 その後の対応状況

### (1) 公共用水域等の継続モニタリング

- 令和6年8月に実施

### (2) 報告書案の作成